

7729

東京精密



東京精密



代表取締役CEO 吉田 均 氏



～世界のモノづくりを支えるメーカー～

世界NO.1の商品を創り出す

● 精密計測機器と半導体製造装置の両輪

- ・当社は「精密計測機器事業」と「半導体製造装置事業」の両輪でビジネスをしています。売上高は2015年度実績で703億円、うち「精密計測機器事業」が285億円、「半導体製造装置事業」が418億円となっています。
- ・八王子、土浦に主力工場を持ち、他には名古屋、上海近郊、タイにも工場を展開しています。

● 常にNo.1を目指す

- ・当社の企業理念は、「世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を作り出し、皆様と共に大きく成長していく」です。コーポレートブランドとして、共生を意味する「ACCURETE」という英単語と、技術を意味する「TECHNOLOGY」を合成した「ACCURETECH」を用いています。
- ・また、企業理念を表すモットーとして「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう」を掲げています。

異なる事業領域で需要変動を吸収

● 精密計測機器:高精度測定技術と信頼性

- ・精密計測機器は、加工部品の長さや粗さ、そして丸さなどを精密に測定する機器群で、売上の6割強が自動車関連業界に向けたものであり、機械業界向けに加え、更に近年では航空機業界向けの売上も増加しています。海外売上も日系メーカーの海外進出に伴い36%となっています。
- ・「長さを測る」三次元座標測定機、「粗さ・丸さを測る」輪郭・真円度測定機、「加工状態を診る」センサ・ゲージ類はいずれも、国内で高いシェアを有しています。強みは、高精度の測定技術と製品の信頼性です。

● 半導体製造装置:精密位置決め制御技術と内製化

- ・半導体製造装置事業は、検査装置(プローバ、売上の6割強)、切断装置、研削装置などから構成されています。海外売上は7割弱となっています。強みは、精密位置決め制御技術と、内製化によるコストの最適化及び開発の速さです。

● 全社の強み:異なる事業領域

- ・全社として、需要変動を吸収できる、異なる事業領域を有する安定性があります。

IT機器、自動車、航空機

● 成長戦略と経営指標

- ・当社の成長戦略は、各事業ともに注目エリアに資本を投下し、収益を高めていくことが基本です。
- ・IT機器の進歩:半導体、特にデータを保存するメモリ、情報通信、センサーの拡大につながると考えており、対応する半導体製造装置を提供します。
- ・自動車需要の拡大:自動車販売台数の増加は設備需要に繋がる事、また信頼性重視の車載デバイスの拡大は更なる半導体製造装置需要に繋がる事から、高い精度・信頼性を有する製品を展開してまいります。
- ・航空機需要の拡大:航空機は需要拡大が予想されています。部品は大型、かつ高精度になるため、大型精密計測機器の拡販に尽力します。
- ・各事業とも、製品をより強くする取り組みを進める一方、これらの技術を応用した、新たな事業セグメントを立ち上げ、利益体制の更なる強化を狙います。
- ・経営指標面では、ROE10%以上の企業体質の維持、過去最高の営業利益150億円の更新を目指します。

2016年度業績見通し

● 2016年度の市場見通しと当社の業績見通し

- ・精密計測機器市場は、2009年度を底に、自動車の省エネ化や生産革新などで高精度の測定需要が増加したため、緩やかに拡大していますが、2016年度は外需が軟調に推移している事から、高水準ながらも前年度対比で減収を予想しています。
- ・半導体製造装置市場は需要の波が大きく、過去もアップダウンがありましたが、2018年度までは緩やかな成長が継続すると予想されています。その中で当社の半導体製造装置は、今年度も増収を見込んでいます。
- 株主還元:通期で1株あたり68円の配当を予定
 - ・2016年度の配当については、業績連動の利益配分を基本として、配当性向で30%程度を目安としています。利益水準に依らず、年20円配当は維持します。
 - ・自己株式取得は、配当を補完する機動的な還元策と位置づけています。